

令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
中	214

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 湯山中 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 池田 秀彦

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	36	64	0	0	3.4	○小集団学習やTT指導などを通して、個に応じた指導を充実させることができた。 ◆松山の授業モデルを再確認し、生徒の学習意欲と達成感を高められるよう改善する。
			学校関係者	87	27	60	10	3	3.1	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	93	57	36	7	0	3.5	○EILS-PBTを各種テストに活用する教員が多くなり、ICT活用を推進することができた。 ◆校内研修を充実し、教員のICTスキルを向上させ、活用が増えるよう改善する。
			学校関係者	95	35	60	5	0	3.3	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	64	36	0	0	3.6	○ICTを活用する機会が多くなり、評価や分析が速くできて、授業改善につながった。 ◆分かる授業を心掛け、生徒の達成感や満足感が保護者の評価につながるよう改善する。
			学校関係者	83	29	54	16	1	3.1	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	93	50	43	7	0	3.4	○学校づくり推進委員会などで、地域の意見を積極的に取り入れるよう工夫できた。 ◆いろいろな取組の成果を、地域の活動につなげる指導ができるよう改善する。
			学校関係者	91	39	52	9	0	3.3	
	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	57	43	0	0	3.6	○人権劇や人権に関する道徳の授業などの取組を通して、生徒の意識が高まった。 ◆家庭との情報交換を密に行い、いじめ解消を目指して、生徒に寄り添う指導を継続する。
			学校関係者	90	41	49	9	1	3.3	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	B	教職員	93	50	43	7	0	3.4	○より良い学校生活を目指して、生徒・家庭・学校が一体となって活動することができた。 ◆教師の指導を統一し、保護者に理解してもらえるよう、家庭との連携をより良く改善する。
			学校関係者	82	33	49	17	1	3.1	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	B	教職員	93	43	50	7	0	3.4	○職場体験や福祉体験などを通して、地域の協力を得ながら、充実した進路学習ができた。 ◆キャリアパスポートの活用や教育相談を通して、体系的に進路指導を進めるよう改善する。
			学校関係者	74	28	46	24	2	3.0	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○交通安全の校内放送や安全点検を通して、安全に生活する意識を高めることができた。 ◆危機感を持って交通安全指導の徹底を図り、形式的な指導に陥らないよう改善する。
			学校関係者	95	49	46	4	1	3.4	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○テイルを活用した欠席連絡などを通して、家庭との連携を一層深めることができた。 ◆生徒の様子の変化に気を配り、養護教諭や家庭との情報交換を丁寧に行うよう改善する。
			学校関係者	93	41	52	5	2	3.3	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○感染症対策の指導を継続して行い、流行性疾患への感染や広がりを防ぐことができた。 ◆全校体制で感染症対策をさらに徹底して行えるよう声掛け、働き掛けの方法を工夫する。
			学校関係者	92	38	54	8	0	3.3	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	93	43	50	7	0	3.4	○学級担任を中心に、個の特性に応じた支援を心掛けて授業等に取り組むことができた。 ◆特支コーディネーターとの連携を図り、個を大切にした指導を継続できるよう改善する。
			学校関係者	92	34	58	7	1	3.3	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	50	50	0	0	3.5	○小規模校の特性を生かし、互いに協力して取り組もうとする意識が高まったことができた。 ◆報告・連絡・相談を大切に、学級、学年を超えた連携が深められるよう改善する。
			学校関係者	89	30	59	9	2	3.2	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	B	教職員	93	50	43	7	0	3.4	○校内研修を通して、授業改善や課題への対応に真摯に取り組もうとする意識が高まった。 ◆実践を振り返り、分かる授業づくりを目指して研修の機会が多くなるよう改善する。
			学校関係者	81	23	58	17	2	3.0	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	64	36	0	0	3.6	○行事で保護者や地域の方に参観してもらう機会を増やし、交流を深めることができた。 ◆取組を広く知ってもらうため、HPなど情報発信の方法を工夫し、充実するよう改善する。
			学校関係者	83	34	49	15	2	3.2	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	93	7	0	0	3.9	○学校行事や部活動などを題材に毎日更新し、積極的に情報発信することができた。 ◆全教職員に分担を割り振るなど、HPIに関わる教員が一部に偏らないよう改善する。
			学校関係者	94	54	40	5	1	3.5	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	36	64	0	0	3.4	○行事記録や生徒の感想を多く取り入れ、動きのある展掲示を工夫することができた。 ◆掲示板を学年で分担するなど、一部の教員に負担が偏らないよう改善する。
			学校関係者	90	32	58	9	1	3.2	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	B	教職員	72	36	36	28	0	3.1	○教育相談室や養護教諭との連携を通して、生徒に寄り添う指導を深めることができた。 ◆生徒に寄り添う指導を継続するとともに、SCや関係諸機関との連携を深めるよう改善する。
			学校関係者	82	27	55	15	3	3.1	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	B	教職員	86	36	50	14	0	3.2	○合同研修会等を通して、情報交換を丁寧に行い、小中の連携を図る意識が高まった。 ◆学校行事等を通して、児童生徒の交流の機会を多くし、相互理解できるよう改善する。
			学校関係者	81	26	55	15	4	3.0	

令和7年度 学校評価のまとめ

松山市立湯山中学校

1 はじめに

本校は山間に位置する小規模校であり、その特徴を生かして、学校・家庭・地域が一体となって、特色ある学校づくりに取り組んでいる。教育目標「笑顔・夢・挑戦 諦めない生徒の育成」の実現を目指して、豊かな人間性や生きる力を育む教育活動を進めている。

学校評価は、本校の教育活動の成果を検証し、必要な支援や改善について検討するための資料であり、それら支援の充実や改善によって、生徒がより良い教育を享受できるよう、学校運営の発展を目指し、教育水準の向上を図ることをねらいとしている。

なお、肯定的評価（思う、やや思う）と否定的評価（あまり思わない、思わない）に大別して分析することで、結果をより分かりやすくまとめている。

2 結果と考察

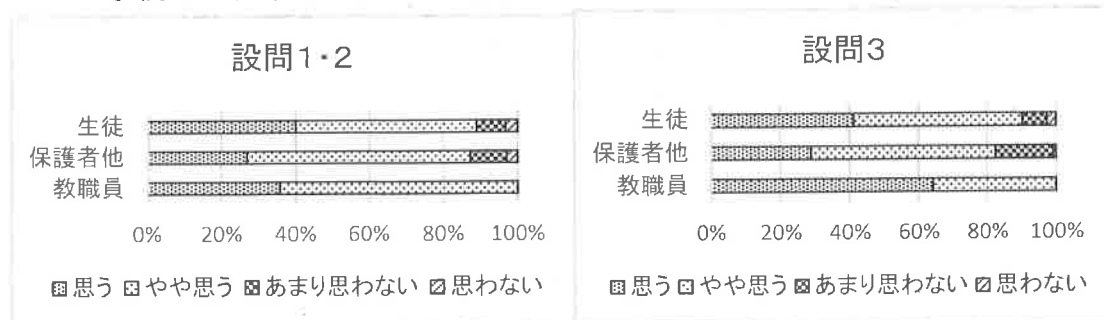
① 教育課程・学習指導について

設問1 学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問2 学校の授業では、学習内容の理解が深まったり、友達と学び合ったりすることができて、うれしいと感じられる。（生徒）

設問3 学校は、生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）

学校では、学力や体力の状況に合わせた授業を行っている。（生徒）



学習指導に関する質問では、全体として肯定的評価の割合が高い。生徒の肯定的評価は90%以上、保護者の肯定的評価は80%以上であり、昨年よりも向上した。しかし、学習内容の理解が十分に深まっていない生徒や、学び合いを苦手とする生徒も1割程度おり、学ぶ喜びと分かる喜びやできる喜びは必ずしも同一ではない。様々な授業形態や指導方法についての理解を深め、一人一人が分かる授業づくりと個に応じた指導や小集団学習の充実など、基礎・基本の定着を大切にした授業改善を進めていきたい。

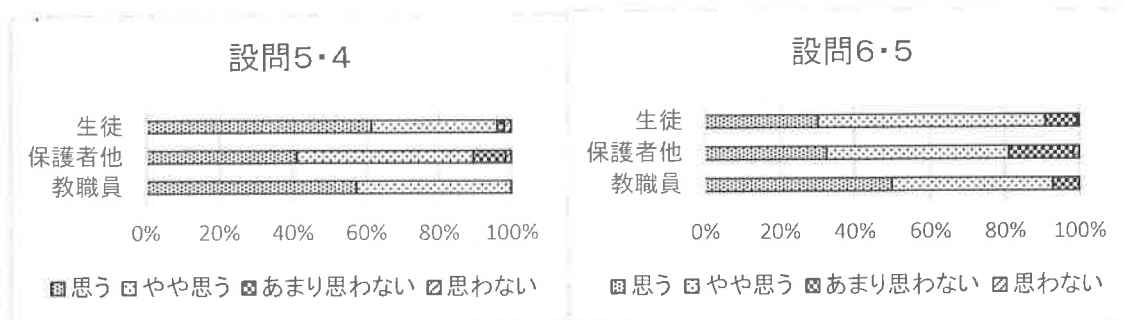
② 人権・同和教育、生徒指導について

設問5 学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問4 自分には、いじめや差別を許さない気持ちがある。（生徒）

設問6 学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問5 「学校の決まり」などを意識し、だれもがより良い学校生活が送れるよう心がけている。(生徒)



人権・同和教育や生徒指導に関する質問は、他の設問よりも肯定的回答が高く、昨年と同様の評価だった。

学校では、特別の教科道德の時間をはじめ、生徒会の取組などを通して、いじめや差別のない人間関係作りに取り組んでいる。令和7年11月1日にご覧いただいた、人権劇などの取組を通して、生徒の人権意識も高まり、保護者の方からも高い評価をいただくことができたと考える。しかし、「いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得るもの」であること、教職員の言動がいじめのきっかけや助長の原因となり得ることを十分認識しておく必要があると考える。

「生徒会申合せ事項」(いわゆる学校のきまりに相当するもの)については、毎年度、生徒会が主体となって、学級活動や生徒協議会で真剣に話し合い、生徒・保護者・教員の三者合同検討委員会を経る形で見直し・改善を行っている。

今後も、生徒が主体的により良い人間関係作りに努め、安心して過ごすことのできる学校生活の向上に取り組めるよう指導・支援を継続していきたい。

③ キャリア教育について

設問7 学校は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える生徒を育てている。(教職員、保護者、学校関係者)

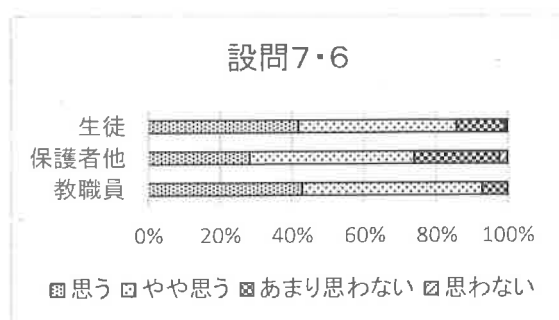
設問6 さまざまな授業を通して、自分の進路や生き方について考えている。(生徒)

キャリア教育に関する質問では、生徒からの肯定的評価は80%を超えているが、保護者の肯定的評価は80%を下回っている。

本校では、生徒が自分の進路や生き方について考える機会を多数設けている。例えば、毎週1時間の道德科の授業では、「他者とのかわりの中で自分らしく

生きていくにはどうすればいいか」を考えている。各教科においても、現代社会の課題等とどう向き合えばいいかを考える機会がいくつもある。

また、総合的な学習の時間では、防災や環境保護学習・職業体験(1年)、職場体験学習・「働き方」「演劇の手法を用いた表現力育成」「ものづくり」等に関する学習(2年)、福祉体験・パラスポーツ体験・進路情報の収集・自己理解のための面接練



習（3年）を行っている。

入学式や少年の日記念集会・記念行事、卒業式も、該当学年の生徒にとっては学校生活の節目を自分たちの成長につなげる重要な行事であり、キャリア教育の一環となっている。

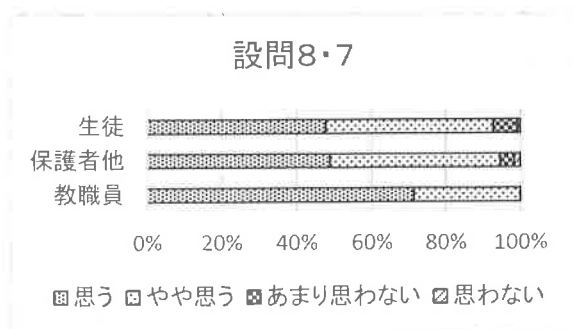
キャリア教育が、これら多様な活動を通して、自己の生き方について考えを深める学びとなるよう指導を工夫する必要がある。また、キャリアパスポート（小学校から高校まで使用する）に活動の記録を蓄積しており、それを有効活用して、キャリア意識を育てていきたい。

④ 安全管理について

設問8 学校は、生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境作りに努めている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問7 学校は、交通安全やけがの防止など、安全な環境づくりや指導を行っている。（生徒）

安全管理に関する質問は、昨年同様に高い肯定的評価が得られた。日常的に安全管理に努め、啓発活動を行ってきた成果であろうと思われる。しかし、登下校時の自転車の乗り方に危険を感じ、指導を要する場面が少なからずあった。今後は、自分の命を守るということを強調し、自転車通学性だけでなく、全校生徒に対して登下校時の交通安全を徹底し、地域から認められる安全意識の高揚を目指して、残っている不安を0に近づけたい。

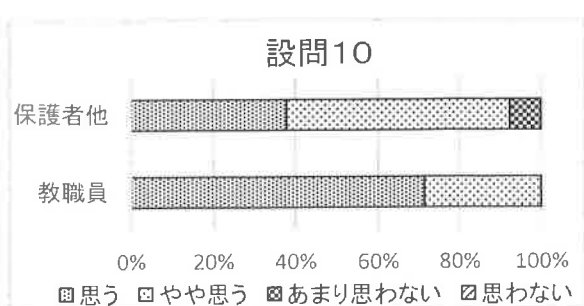
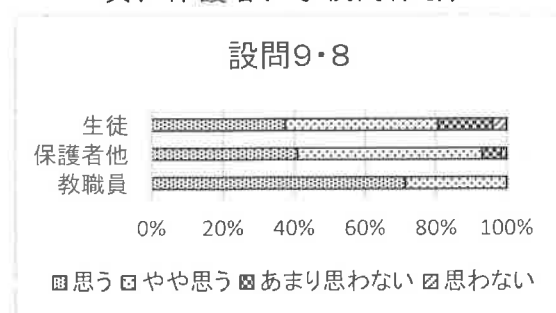


⑤ 保健管理について

設問9 学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問8 健康的で規則正しい生活を送っている。（食事、睡眠、運動など）（生徒）

設問10 学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）



保健管理に関する質問では、全体的に肯定的評価が多かった。生徒の設問8では、肯定的評価が80%を超え、昨年より健康管理についての意識が高まっている。

今後も、規則正しい生活習慣の大切さなどについて理解を深めさせるため、繰り返しの指導を徹底し、保健委員の働き掛けや、「保健だより」などを活用した啓発活

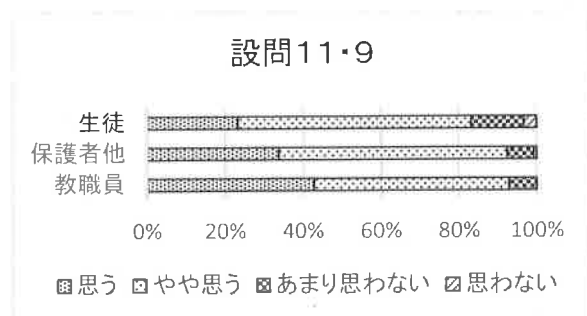
動などを継続して実行していきたい。また、食事や睡眠、ゲームやスマートフォンの使用などについては家庭の協力が不可欠であるので、今後も適切な情報提供に努め、家庭との連携を図っていきたい。

⑥ 特別支援教育について

設問11 学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問9 学校は、一人一人の個性に応じた配慮や指導、アドバイスを行的てくれている。(生徒)

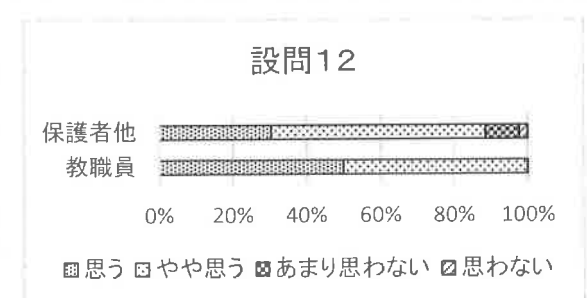
特別支援教育に関する質問では、生徒の肯定的評価は昨年度と同様であったが、保護者の肯定的評価は向上が見られた。全ての生徒にとって学びやすい授業であるために、指示の伝え方や板書のしかたの工夫、生徒一人一人に応じた適切な課題の準備、共感的な人間関係作りなどを今後も続けていきたい。また、個々の生徒を大切に、心の通う教育相談を心掛け、保護者との情報交換を密にするとともに、生徒に寄り添った指導を行ってきたい。



⑦ 組織運営について

設問12 学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

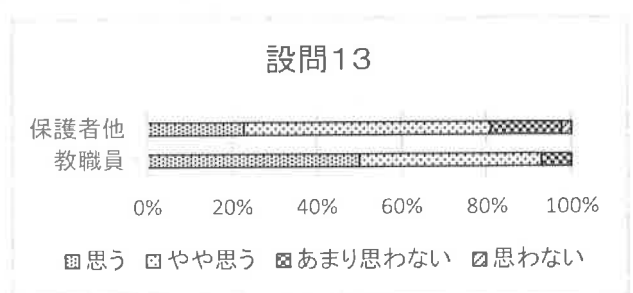
組織運営に関する質問は、肯定的評価が90%近くになり、多かった。良好な組織で日々活動することが、学校・学年・学級の雰囲気づくりに重要である。今後も、安心感を感じることでできる組織であり続けるよう努力するとともに、生徒の変化に素早く気付き、教員が一枚岩でそれに対応できる組織づくりを進め、肯定的回答の更なる向上を目指したい。



⑧ 研修について

設問13 学校は、生徒一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。(教職員、保護者、学校関係者)

研修に関する質問では、教職員の強い肯定は向上した。教職員の研修については、保護者からは見えにくい面もある。そのため、授業や学校行事等の参観の機会を多く取り、研修の成果を実感していただけるよう努めるとともに、肯定的に評価して



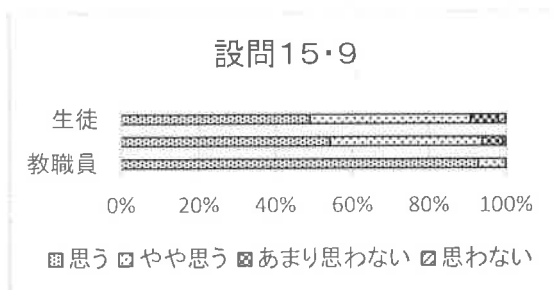
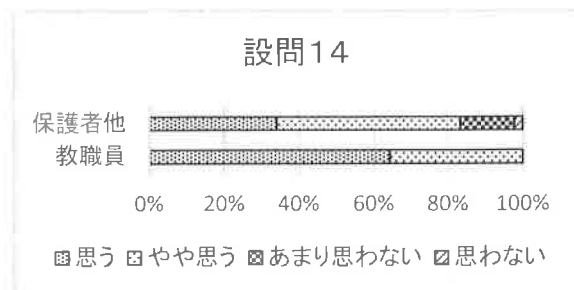
いただけるように様々な面での研修を深めていきたい。

⑨ 保護者・地域との連携、情報提供について

設問14 学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。(教職員、保護者、学校関係者)

設問15 学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。(教職員、保護者、学校関係者)

設問10 学校は、学年・学校だよりやホームページ等により、積極的に情報発信してくれている。(生徒)



保護者・地域との連携に関する質問と情報発信に関する質問では、昨年同様に高い肯定的評価を得ることができた。学校のホームページは、学校行事や日々の学校生活、部活動の様子、生徒の感想などを記事として毎日更新しており、行事や学校だより、ホームページなどを通して学校の様子を知っていただくことができていると考える。

今後も多様な手段で積極的に情報発信し、より強い連携・協力のあり方を工夫していきたい。

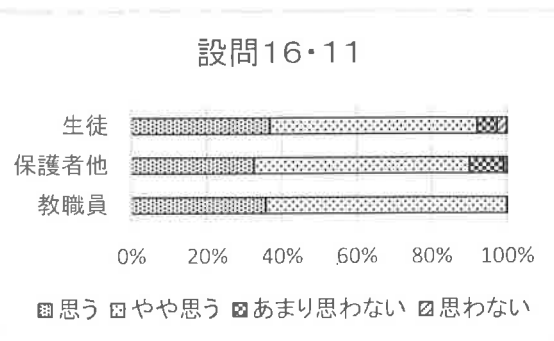
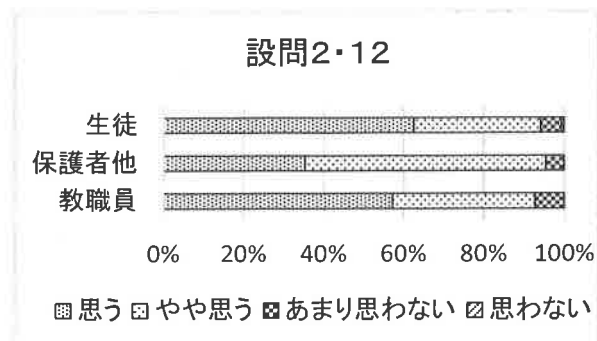
⑩ 教育環境の整備について

設問2 学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした「授業改善に取り組んでいる。(教職員、保護者、学校関係者)

設問12 ほぼ毎日、授業でタブレット端末を使用している。(生徒)

設問16 学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問11 学校の学びの環境(展示物、掲示物の充実など)は整っている。(生徒)



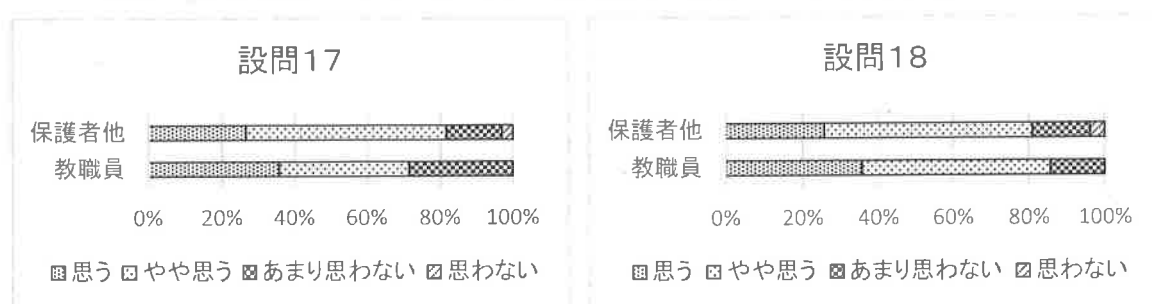
教育環境の整備に関する質問では、昨年同様に高い肯定的評価が得られた。ロイロノートの活用をはじめとして、本校のICT活用率は市内トップクラスであり、生徒用端末も新しいものに交換され、授業等での活用が積極的に行われている。昨年度に引き続き、今年度もEILS-PBT(手書きの解答の採点を支援するシステム)を

活用した実践研究に取り組んだ。全国学力・学習状況調査や愛媛県学力診断調査でもC B T（コンピュータを使った調査）が取り入れられているなど、今後も全ての教科で積極的にI C Tの有効活用を進めていきたい。また、各教科において、ノートやワークシートなどのアナログとI C Tなどのデジタルとのベストミックスを図り、表現力を伸ばす指導を工夫していきたい。

⑪ 幼保小中連携について

設問 17 学校は、中一ギャップの解消につなげるために小学校と連携し、生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問 18 学校は、小学校と連携して生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）



幼保小中連携に関する質問では、各設問ともに保護者の肯定的評価が昨年よりも若干向上した。

小中間では、生徒指導や交通安全、危険場所の情報、非常変災への対応、学校行事の実施時期等に関する情報交換などを日常的に行っている。また、学習指導に関しては、発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を作成し、小中間で共有して活用している。毎年度夏休み中には、小中全ての教員が参加して、小中合同研修会を開いている。今年度は、人権・同和教育についての研修を行った。今後も、参観日や学校行事の相互参観など、授業改善につながる取組を促進したい。また、これらの取組について、ホームページや学校だよりを通して発信していくよう努めていきたい。

3 おわりに

今年度は学校評価アンケートはオンライン回答とアンケート用紙回答の両方で実施し、保護者回答率は74%であった。昨年度より回答率は向上し、より多くの意見を聞かせていただくことができた。今後も声掛け、働き掛けを工夫し、さらに多くの保護者の皆様のご協力がいただけるよう取り組んでいきたい。

今回の学校評価アンケートから得られた結果を参考にしながら、保護者・地域・教職員がしっかりとチームを組み、「やる気」学び続ける生徒、「本気」礼節を大切にする思いやりのある生徒、「元気」しなやかに行動する生徒を育成していくことで、教育目標「笑顔・夢・挑戦 諦めない生徒の育成」を目指していきたい。